



雨の日のベナン



ベナンは、大きく分けて2つの季節があります。『乾季』と『雨季』です。乾季になると、ほとんど雨が降らず、真っ青な空に太陽が昇り、本当に『ジリジリ』と音がしそうなほど日差しが強くなります。雨季は、他の時期に比べて、雨が降ったり曇っていたりすることが多くなります。しかし、日本の梅雨の様に、何日も雨が降り続くのではなく、30分ほど強い雨が降って晴天が戻ってくるのがほとんどです。

ベナンでは、雨が降ると、意外な物が大活躍します。それは、『ビニール袋』です。雨がすぐに上がることを知っているからか、急に雨が降ると、大抵の人は近くで雨宿りをして待ちます。傘を使う人はあまり見かけません。でも、急いでいる人やバイクタクシーの運転手は、ビニール袋を上手に使って、雨に濡れるのを防いでいるようです。ちょっと面白い生活の知恵ですね。



バイクタクシー

大きなビニール袋を使って、ハンドルを濡らさないように？または、上半身が濡れないようにしているようです。でも、運転に支障はないのかなあ？心配な気もしますが・・・



合羽？シャワーキャップ？

特に女性は、雨が降るとまず、頭(髪の毛)を守ります！その理由は、ほとんどの女性が、『トレスト』といって、人工毛をキレイに編み込んでいるからです。髪に編み込んでオシャレをするのに、美容室で4～5時間かかります。そして、この人工毛は、濡らしてはいけません。どこの国でも、『髪は女の命』ということですね♪



上手に着ました！





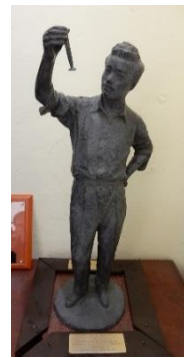
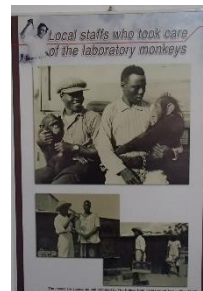
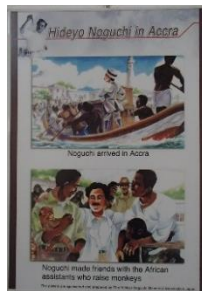
近国ガーナについて



ベナンの西側に、ガーナという国があります。日本では、チョコレートの商品名としてよく知られている国名です。

ガーナは、ベナンから飛行機で約50分。距離が近く、食べ物も似ていますが、公用語(おおよけの場で使用が定められている言葉)が違います。ベナンは、昔、フランスの植民地だったので、公用語は、フランス語です。一方、ガーナはイギリスの植民地だったので英語を話します。

ガーナに訪問する機会があったので、数日間、ガーナに滞在しました。ガーナは、とても日本と関係の深い国でした。特に、福島県とは、切っても切れない関係です。その理由とは。。



イラストや写真を使って、ガーナに来た時の様子や研究内容が紹介されている

病院の一角に今も残る研究室

野口英世

ガーナは、野口英世が黄熱病の研究をした国です。大学病院の中に、今でも彼が研究に使った部屋が残されており、その様子を紹介する展示室があります。日本とガーナが協力して作った日本庭園もありました。ベナンに来る際には、私も黄熱病の予防接種をしてきました。遠い昔に、日本の同じ福島からはるばるガーナへやって来て、たった一人の日本人として研究を続けた彼の思いが、今もここで生きているような、そんな感じがしました。



研究の様子や家族の写真なども展示



小規模ながら、日本庭園



赤べこ発見!!



異国の地で耐えるべき事も沢山あったに違いない...

